

高等
科用

普通讀本

高橋熊太郎編

二編上

T1A3

10

Ta33

圖書 和圖書 遡

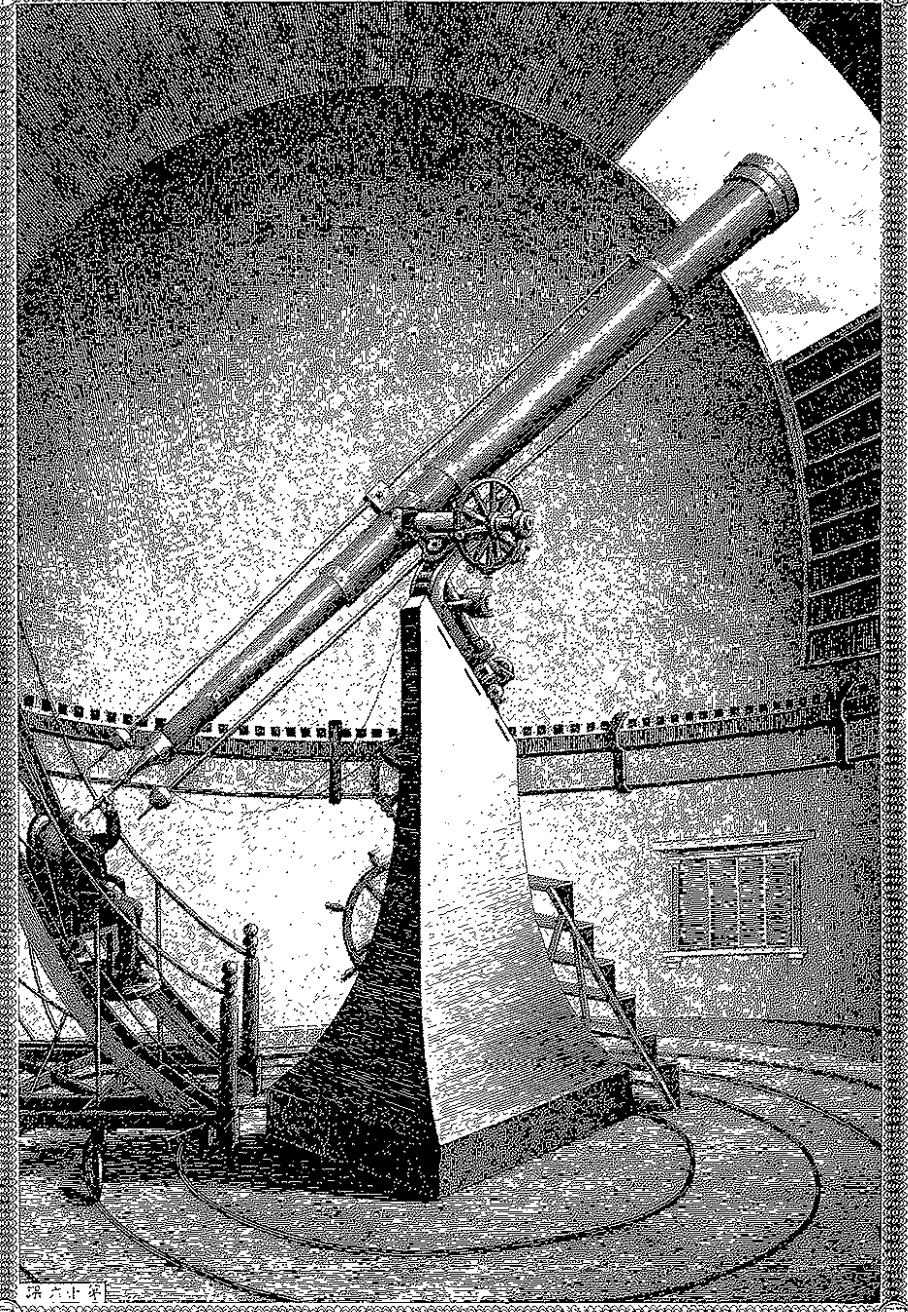


福岡教育大学蔵書

高等普通讀本二編上目次

第九課	趙雲ノ忠勇	十八丁
第八課	神戸長崎ノ二港	十六丁
第七課	前課ノ續	十四丁
第六課	植物ノ話 其三 花	十二丁
第五課	無盡ノ性	九丁
第四課	神功皇后ノ征韓	八丁
第三課	馬丁ノ廣潔	五丁
第二課	分業ノ利	二丁
第一課	上杉謙信	一丁

明治二十九年二月十六日
文部省檢定濟



第六十卷

第十課	身體ノ機關 其三	消化	二十丁
第十一課	筆法ノ初步		二十三丁
第十二課	三様ノ平準		二十五丁
第十三課	鐵ノ三種		二十八丁
第十四課	吉益東洞		三十丁
第十五課	火山		三十三丁
第十六課	造化ノ不可思議		三十五丁
第十七課	輕氣球ノ話		三十八丁

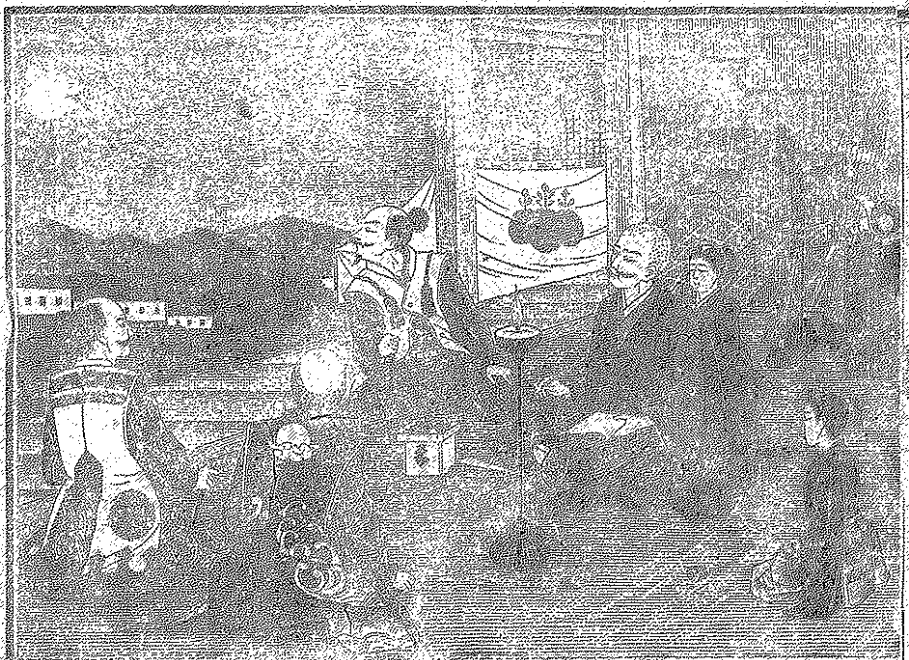
高等科用 普通讀本二編上目次終

高等科用 普通讀本二編上

高橋熊太郎 編

第一課 上杉謙信

良將ハ特ニ武備ニ精シキノミナラズ、又必ず文
 事ニモ疎カラヌ者ナリ。斯クテコソ真ノ良將ト
 稱スベケレ。上杉謙信ハ、汝等モ聞キ知レル如ク、
 武略勇敢無雙ノ大將ニテ、越後ヨリ起リテ、佐渡
 出羽上野能登等マデ伐チ從ヘテ、當時隣國虎ノ
 如ク怖レシ所ノ人ナリ。斯ノ如キ武將ナレバ、必
 ス學事ニハ疎カラント思フ人アルベケレドモ、



決シテ然ラズ、謙信ハ學
 問ニ長ジ、詩歌ニモ亦巧
 ナリ。
 嘗テ能登ノ國ヲ攻メシ
 時、七尾城ヲ破リテ兵ヲ
 休ムルコト二日、恰モ九
 月十三夜ニ遇ヒテ、月光
 清ミ渡リ、北陸ノ諸山眼
 前ニ連リ、其景色言フバ
 カリ無ク面白カリケレ

バ、從ヘル將士ヲ召シ集メテ宴ヲ開キテ、

霜滿軍營、秋氣清、數行過鴈、月三更、越山併得能
 州景、遮莫家鄉憶遠征、

ト賦シタリ。此詩今ニ至ルマデ人口ニ膾炙スル
 所ナリ。

詩ハ本ト支那ノ歌ニシテ、我國ノ上古ニハ無カ
 リシモノナルニ、中古彼レト相往來シテヨリ、專
 ラ行ハレテ、文人學士ハ多ク之ヲ詠ジテ思ヲ述
 ブ。今日漢學ニ從事スル者ハ、概子皆之ヲ作ルコ
 トヲ解シテ、普通ノ事トナレリ。凡ソ詩ニハ、五言

絶句、五言律、七言絶句、七言律等ノ諸體アリテ、謀
信ノ此詩ハ、七言絶句ニテ、七字ツ、四句ヲ合セ
テ成リ、又五言絶句トハ、五字ツ、四句ナル者ヲ
云フ。渾テ斯ノ如ク四句ナル體ヲ絶句ト云ヘリ。
汝等モ詩ヲ誦シ、或ハ之ヲ作ルコトヲ學ブトキ
ハ、大ニ其讀書ノ助トナルコトアラン。

第二課 分業ノ利

利用厚生ノ道モ種々アレドモ、就中肝要ナル者
ヲ分業ノ法トス。分業トハ、一人ニシテ數事ヲ兼
務セズ、一人必ズ一事ヲ專ニスルノ謂ナリ。凡ソ

業ノ何タルヲ論ゼズ、久シク心勞ヲ一事ニ專ニ
スレバ、才能自ラ長ジテ其業益熟スルコトハ、復
タ論ヲ須タザルナリ。分業ハ則チ人ヲシテ、心力
ヲ一事ニ專ニセシメ、其才能熟練ヲ進ムルノ法
ナリ。一人ニシテ數事ヲ兼ヌレバ、一ノ作エヲ止
メ、屢、他ノ職業ニ轉換スルノ際、無益ノ時間ヲ費
サブル可カラズ。分業ハ則チ其轉換ノ際生ズル
空費ヲ省ク者ナリ。若シ又一人數業ヲ爲セバ、數
業ノ用具ヲ具ヘザル可カラズ。一業ヲ爲スノ間
ハ、他業ノ用具ハ間具ト爲リ、資本ヲ閑却スルノ

損アリ。分業ハ則チ此損ヲ防グ者ナリ。又業ニハ
 難易アリ、心ヲ勞スル者ト力ヲ勞スル者トノ別
 モアリ、業ノ難キ者ト心ヲ勞スル者トハ、賃錢貴
 ク、其易キ者及ビ力ヲ勞スル者ハ、賃錢賤キハ自
 然ノ數ナリ。

今分業ハ業ノ難易ニ應ジ、力ヲ量リテ之ニ任ジ、
 才ヲ擇ビテ之ヲ處シ、人ノ短ヲ捨テ、其長ヲ用
 ヒ、以テ老幼智愚ヲシテ、各其職ヲ得シメ、且ツ貴
 キ賃錢ノ者ヲシテ、賤シキ賃錢ノ者ノ業ヲ執ル
 如キ不經濟ナカラシム。又業ハ分ツニ精シク兼

又ルニ粗ナル者ナレバ、之ヲ分テ意ヲ一事ニ注
 グトキハ、新規ノ良法ヲ發明シ、若クハ利便ノ器
 械ヲ工風スルヲ得ルニ至ルベシ。是亦分業ヨリ
 生ズル利益ノ一ナリ。分業ノ効驗アルコト斯ノ
 如シ、故ニ其勞動ノ効ヲ増シ、經濟ノ世界ヲ益ス
 ルヤ、洪大無邊ト謂フベシ。是ヲ以テ都會ノ分業
 ハ鄙邑ヨリ繁ク、文明國ノ分業ハ未開國ヨリ密
 ナリ。蓋シ分業ハ世運ニ伴ヒテ消長スル者ナレ
 バ、分業ノ精粗ヲ見テ、一國ノ文野ヲトス可キ者
 トス。

既ニ業ヲ分テバ、交易ノ事之ヨリ生ズ。何トナレ
バ有無相通ジ、彼我互ニ供スルノ道ナキトキハ、
人々萬業ヲ兼テザル可カラズシテ、分業成立ツ
ヲ得ズ、故ニ交易ノ已ムヲ得ザルコト久シ。國中
ニ州邑アルハ、州邑ニ各人アルガ如シ。各人已ニ
專攻ノ業アリトスレバ、各州各邑ニモ亦自ラ專
産ノ貨アリ。其地理風土ノ適スル所ニ從テ業ヲ
分チ、其有餘ヲ以テ不足ニ易フ。是交易ノ道州邑
間ニモ行ハル、所以ナリ。
分業ノ利獨リ州邑間ニ止マラズ、宇内碁布星羅

ノ萬國、各地質氣候ノ異同アリ、又民心ニ文樸營
銳ノ區別アリ、從テ其産スル所ノ貨物モ相同ジ
カラズ、或ハ耕作ニ因テ國ヲ建テ、或ハ工藝ヲ以
テ生ヲ營ミ、或ハ山産ニ富ミ、或ハ海産ニ饒カナ
リ。依テ各、其長ズル所ニ從テ物貨ヲ産ス、是所謂
國産ナリ。是ニ於テカ國ト國トノ互市ヲ生ジ、外
國交際ノ必要ヲ見ルニ至ル。乃チ迭ニ條約ヲ締
ビ和親ヲ通ジ、其多キモノヲ輸出シテ其乏キモ
ノヲ輸入シ、交換ノ際彼此相互ニ利益ス。獨リ有
形ノ貨物ノミナラス、言語、風俗、學術、文藝ノ如キ

ノ謝スルコトカ有ルベキ。然レドモ夜ヲ冒シテ
遠ク來レリ、賃錢二百文ヲ賜ハゞ足レリトテ受
ケズ。余ガ曰ク、汝ノ義心ニ非ザレバ、余殆ド生ヲ
全クスルコト能ハザリシニ、再生ノ恩ヲ受ケタ
レバ、聊カ寸志ヲ表スルノミナリ、辭スルコトナ
カレトイヘド、馬丁愈、辭退セシカバ、半バヲ減ジ、
八兩ヲ出スニマタ受ケズ、漸ク減ジテ後ニハ纔
ニ金二分ニ至レリ、然レドモ馬丁益、堅ク執リテ
聽カズ。君我ヲ汚スコトナカレ、予賤業ヲ營ムト
雖モ、亦受ケテ守ル所ノモノアリトイフ。余只管、

嘆ジテ欲ニ淡泊ナルモノスラ今世ニハ多ク有
リ難キ所ナルニ、其義ヲ以テ利トスルコト、汝ガ
如キ者ハ絶テ得ベカラズ。抑、汝ノ守ル所ハ何事
ゾヤト問ヘバ、馬丁曰ク、吾等ガ如キモノ、本ト豈
ニ利ヲ思ハザランヤ。然レドモ吾ガ近郷ニ中江
與右衛門トイフ者アリ、藤樹先生ト稱ス。常ニ郷
里ノ人ニ教授セル其言ニ、誠正以テ其身ヲ修メ、
君ニ仕フルニ忠ヲ致シ、親ニ事ルニ孝ヲ盡シ、貧
ヲ以テ濫ルコト勿レ、賤ヲ以テ枉グルコト勿レ
ト、イフコトヲ聞キ居レリ。今若シ賜フ所ノ金ヲ

利セバ、則チ是平素ノ心ヲ欺クナリトテ立去リシハ、誠ニ世ニ希ナル者ナリキト語リケリ。蕃山靜ニ聞キ終リ、良久シクシテ曰ク、馬丁ハ一郷ノ鄙人ナリ、素ヨリ道ノ何物タルヲ識ルベカラズ。然ルニ廉潔ナルコト斯ノ如キハ、是其薰陶ノ致ス所ナラン。其所謂中江氏ハ、真ニ吾ガ師トスベキ人ナリト、即日束装シテ往キテ業ヲ受ケンコトヲ請フ。藤樹辭シテ吾ガ德以テ人ノ師トナルニ足ラズトイフ。蕃山請ヒテ止マズ、其廡下ニ寢ヌルコトニ夜ニ及ベリ。藤樹ノ母之ヲ見テ、

藤樹ヲ誡メ、人遠方ヨリ來リテ懇ニ請フコト此ノ如シ、汝其習フ所ノモノヲ以テ之ニ傳フトモ、誰カ好デ人ノ師トナルト謂ハント曰ヒケレバ、藤樹始メテ之ヲ許容シテ、業ヲ授クルコト、ハナリヌ。蕃山時二年二十三ナリ。藤樹ノ講堂ハ近江高島郡下船崎村ニアリ。近年火災ニ罹リシガ、更ニ建造シテ其遺物數品ヲ藏ムトイフ。

第四課 神功皇后ノ征韓

神功皇后ハ仲哀天皇ノ后ナリ。帝西征シテ筑紫ニ崩ズ。后、大臣武内宿禰ト謀リ、喪ヲ秘シ熊襲ヲ

平ゲ、神勅ヲ奉ジ、新羅ヲ討タントシ、肥前國松浦郡ニ至リ、河邊ニ釣ヲ垂レテ曰ク、我願成ラバ魚此餌ヲ食ヘト、竿ヲ舉グレバ即チ年魚ヲ得タリ。又樞日浦ニ至リ、髪ヲ海ニ洗ヒテ曰ク、我新羅ヲ討チ、戦利アラバ髪分レテ兩箇トナレト、即チ亦分レテ兩箇トナル、因テ東子テ男装ト爲リ、群臣ト相議シ、諸國ニ救シ、船ヲ聚メ武器ヲ調ヘシム。乃チ皇后親ラ斧鉞ヲ執リ、軍ヲ那古邪ニ勒シ、帆ヲ開キテ新羅ニ着ス。新羅王大ニ恐懼シ、素旗ヲ立テ、自ラ我軍門ニ降り曰ク、永ク日本ノ奴ト



ナリ、朝貢ヲ缺クコトナケント。高麗王、百濟王亦之ヲ聞キテ來リ降り、共ニ今ヨリ以後永ク日本ニ隸屬シテ西藩ト稱シ、歲時ノ朝貢ヲ怠ラザルベク、設ヒ鴨綠江逆流シ、大陽西ヨリ出ヅルモ、敢テ此誓ヲ變ズルコトナカラシ、若シ背カバ天神

地祇之ヲ殛哥セント乞ヒケレバ、之ヲ赦シ、三韓
悉ク平グヲ以テ、大矢田宿禰ヲ鎮守府將軍ト爲
シ、新羅ニ留メ、之ヲ治メシメ、皇后乃チ凱旋シタ
マフ。

第五課 無盡ノ性

試ミニ淺皿ニ水ヲ盛り、日光ニ暴露セバ、水ハ漸
次ニ減ジテ終ニ涓滴モ遺サズ。雨後ノ泥濘モ、晴
天一日ノ後ハ、乾燥シテ塵ヲ揚ゲ「ランプ」ニ注ゲ
ル石油モ、點燈通宵ナレバ、全ク盡クルニ至リ、又
炭ヲ焚キ薪ヲ燃スニ、暫時ノ後ハ、燒盡シテ、僅ニ

灰燼ヲ留ムルノミ。夫レ是等ノ現象ハ、漫然見テ
速了スレバ、全ク物ノ減盡シタリトモ謂ハン。然
レドモ仔細ニ其實ヲ究ムレバ、決シテ減盡シタ
ルニ非ズ、只其形ト色ト性質トヲ變化シタルノ
ミ。今一々其理ヲ解説セシ。

淺皿ノ水、地上ノ雨、皆消散スル所以ハ、太陽ノ溫
ニ逢ヒ、水其形ヲ變ジテ蒸發氣トナリタルナリ。
但コノ蒸發氣ノ分子ハ、極メテ眇微ニシテ見ル
可カラザルガ故ニ、則チ恰モ減盡シタル如キ觀
ヲ呈スルノミ。サレバ一旦冷氣ニ遇ヒテ凝リ結

ベバ、雲トナリ、霧トナリ、雨露霜雪トナリ、元ノ水ニ還ルナリ。又石油、薪炭ノ燃エ盡クルモ、燃燒ノ際、或ハ煙ト爲リテ昇リ、或ハ灰ト爲リテ留リ、或ハ燄ヲ揚ゲ見ル可カラザルノ氣體トナリテ去リ、唯大ニ其形色性質ヲ變化スルマデニシテ、初メヨリ一物モ滅盡セルニ非ズ。凡ソ天地間ノ物體ハ、此ニ本形ヲ藏ムレバ、彼處ニ其變形ヲ現ハシテ、更ニ復タ新ナル一物ヲ生ズ。例ヘバ牛羊草ヲ食ヘバ、草ノ本形ハ消滅スレドモ、其分子ハ牛羊ノ體中ニ留リテ、其肉ヲ肥シ、又牛羊野ニ斃ル

トキハ、其肉ハ變潰シテ、草木ヲ肥ヤシ、以テ繁育暢茂セシム。斯ノ如ク物皆新陳代謝シ、彼此交換シテ變化極リナク、終始止マザルコト、猶環ノ端ナキガ如シ。而シテ其物質ハ、毫髮ノ微モ開闢ノ古ヨリ今後幾千萬年ノ後ニ至ルモ、決シテ増減スルコトナカルベシ。眞ニ造化ノ妙機ニシテ、之ヲ物ノ無盡性ト云フ。英國ノ女皇エリサベスノ寵臣ニ、ラレイトイヘル人アリ、亞米利加洲發見ノ後、自ラ此ニ航シ、種々珍奇ノ物ヲ求メ、船載シテ英國ニ歸リケルガ「トバコ」ト稱スル奇草モ、

科用... 亦其一ニ居リタリ。實ニ舊世界ニ煙草ノ渡リン
ハ、此人ニ始マルト云フ。一日ラレイ烟管ト煙草
トヲ携ヘ、女皇ノ前ニ進ミ、奏シテ曰ク、臣請フ女
皇ノ爲メニ煙ノ重サヲ量ラン。女皇笑テ汝何ゾ
煙ノ重サヲ量ルヲ得ンヤ、果シテ能クセバ、朕汝
ニ所望ノ物ヲ與ヘント宣ヒシカバ、ラレイ乃チ
徐ニ煙草ヲ摘ミ、先ツ其重サヲ量リテ後、之ヲ煙
管ニ填メ、一喫シテ其遺ス所ノ灰燼ヲ收メ出シ、
再ヒ之ヲ量リ、以テ得タル數ヲ女皇ニ示シテ曰
ク、王詳ニ前後相同ジカラザルノ重サヲ察セラ

レヨ。是ノ殘數ヲ去リタルモノ即チ煙ノ重サナ
リト、因テ説クニ物ノ無盡性ナルコトヲ以シタ
リ。女皇大ニ其理ニ感ジ、厚ク賞賜シタリト云フ。

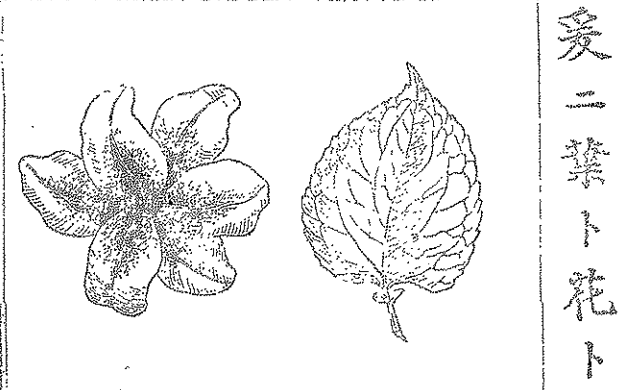
第六課 植物ノ話

其三 花

吾人ガ花ヲ愛スルノ情常ニ深キハ何ゾヤ。其形
美ニシテ其色艶ナルノミナラズ、又其薰香ノ馥
郁トシテ、吾人ヲ娛マシムルモノアルヲ以テナ
リ。

花ノ形狀固ヨリ多クシテ、枚擧ニ遑アラザルハ、

猶葉形ノ品種多々ナルト一般ナリ。然シテ葉ト花トハ敢テ其色ニ由ルコトナク、只其形ノミヲ見テ、之ヲ辨別スルヲ得ベシ。



爰ニ葉ト花トノ圖ヲ掲ゲタリ。諸子ハ其孰レガ花ニシテ孰レガ葉ナルヤハ、色ニ徴スルコトヲ俟タズシテ、容易ニ之ヲ分別セラル、ナラン。是レ何故ゾ。諸子ハ毎ニ葉ノ唯一片ノミニシテ、花ハ輪狀ニ排列セル數多ノ片ヨリ成レルヲ見ルニ由ルニ

アラズヤ。

植物中ニハ、百合花ニ類セル花ヲ有スルモノ頗ル多シ。凡ソ花ハ或ハ三片ヲ合シテ輪ヲ爲スモノアリ、或ハ四或ハ五又ハ六七八九十等ヨリ、尚多數ノ片ヲ合シテ成レルモノアリ、此等ノ輪ヲ花冠ト名ツケ、其各片ヲ花瓣ト名ツク。諸子ハ花冠ノ周圍ニ、概子葉ノ如キ綠色ナル物アルコトヲ認ムベシ。植物學者ハ之ヲ萼ト名ツケ、其各片ヲ萼片ト名ツク。花冠ノ内部ニハ、細織ナル絲ノ如キモノアリテ、

其色ハ黄ナルモノ最モ多ク、概子花底ヨリ挺出
セリ。而シテ其上端ニハ、小胞ヲ戴キテ、通常黄色
ノ細粉ヲ含ム。此絲狀ノモノト小胞トヲ併セテ、
雄蕊トハ云フナリ。

諸子更ニ其内部ヲ諦察セバ、別ニマタ絲狀ヲナ
シテ花ノ中央ヨリ直立セルモノヲ見ルベシ。其
狀雄蕊ニ似タリト雖モ、頂ニ戴クノ小球ハ、稍、膨
大シテ外面粗糙ナリ。此ノ如キ小球ヲ戴セタル
纖維ヲ稱シテ、雌蕊トハ云フナリ。

以上擧グル所ノモノハ、皆花ノ機關ニシテ大抵

此四部ヲ全備スレドモ、或ハ其一ニヲ闕クモノ
アリ。而シテ花冠ト萼トハ、萼ノ間雄雌蕊ヲ包被
スルノ具ニシテ、之ヲ保護機關ト曰ヒ、雌雄蕊ハ
花ノ主用ヲ達シ得ベキ機關ニシテ、之ヲ緊要機
關ト曰フ。

第七課 前課ノ續

稚種子ノ始メテ生ズルハ、常ニ雌蕊ノ根底ニ於
テス。花方ニ盛開シ、彩色艷美人目ヲ娛マシムル
ノ時ニ當テ、此種子將ニ漸ク花ノ内部雌蕊ノ底
ニ於テ生長セントス。但其始メヤ、極微ニシテ、肉

眠モテ殆ト視ルベカラズ。

花瓣既ニ散落シ、或ハ枯凋シタル後、種子ハ愈發育シテ遂ニ成熟スルニ至ル。蓋シ此際通常綠色ニシテ堅キ花底ハ、種子ノ周圍ニ發達シテ、以テ果實ヲ爲スナリ。

是レ南瓜ノ蔓ニ開ケル大ナル鐘形黃色ノ花ニ於テ見ルベシ。其始メハ雌蕊ニ三個ノ粒アリ、其色艷美日光ニ照映ス。此時蟻、蜂、蝴蝶等爭ヒ來リテ其甘汁ヲ吸フ。既ニシテ花底ノ果實漸ク發育スレバ、花ハ終ニ凋落シ去テ、其跡ニハ、特ニ一個

ノ南瓜ヲ遺シ、漸ク長大トナリテ成熟スルノミ。然レテ南瓜ノ蔓ニハ、固ヨリ花多ケレドモ、其能ク實ヲ結ブハ、二三ニ過ギズ。自餘ハ皆凋落シテ跡ヲ留メズ。然レドモ黃色鐘狀ニシテ艷美ナルハ、曾テ果實ヲ成スノ花ト異ナルコトナシ。然ラバ此ノ如キノ花ハ、其用何クニカ在ルヤ是レゾ一ノ意ヲ留ムベキ問題ナル。諸子試ニ此等ノ花ヲ取テ熟視セヨ。其内ニハ只雄蕊ノミアリテ雌蕊ナキヲ認ムベシ。此ノ如キ雄蕊ノ花ハ、種子ヲ生ジ、實ヲ結ブモノニアラズ。

諸子將ニ問ハントス、果シテ然ラバ、雄蕊ハ何ノ用ヲカ爲スト。抑、雄蕊ト雌蕊ノ間ニハ、甚ダ奇ナル關係アリ。雄蕊ノ小胞中ニ細粉ヲ生ジ、其成熟スルニ及ビテ、胞外ニ顯ハレ出ツ。此時蝶、蜂等ノ小蟲花中ニ入り來リ、此等ノ小胞ニ觸レ、其細粉ヲ己ノ身體ニ附着ス。

須臾ニシテ此蝶、蜂更ニ他ノ南瓜花ニ飛ビ移ラシニ、此花ニハ却テ雌蕊ヲ有スルモノアラシ。而シテ蝶、蜂ハ亦均ク其雌蕊ニ觸レンニ、正ニ此際ニ於テ、先キニ雄蕊ヨリ取り來リタル細粉ヲ、雌

蕊ノ球頭ニ移シ置クベシ。

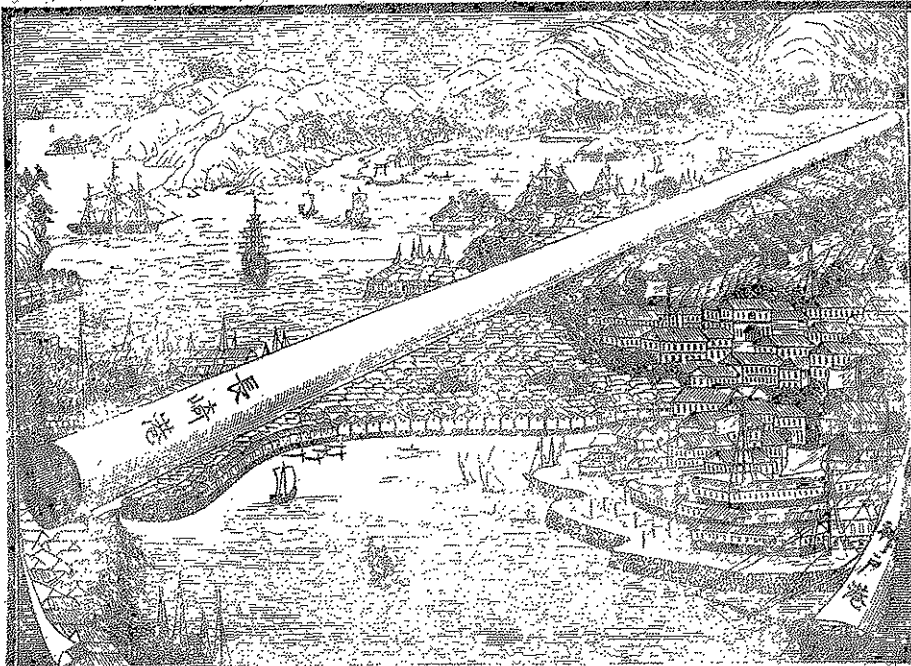
實ニ是ニ由テ雌蕊ノ底ニ潜在セル種子ハ、始メテ發育スルニ至ルナリ。若夫レ花粉ノ雄蕊ヨリ來ルコト微リセバ、種子ハ雌蕊中ニ生長スルコトナカラン。知ルベシ雄蕊モ亦其職分アルコトヲ。顧フニ雄蕊ノ小胞ニ生ズル細粉ハ、若シ蝶、蜂等ノ媒介ナカリセバ、如何ナル方法ニ由リテカ、竟ニ之ヲ雄蕊ノ上ニ移サザル可カラズ。然ラザレバ果實ハ遂ニ生成スルコトナキナリ。

第八課 神戸長崎ノ二港

神戶ハ五港ノ一ニシテ、慶應三年始メテ開キテ、
外國トノ互市場トセリ。湊川ヲ界トシテ、西ノ方
兵庫ニ接シ、和田ノ岬、西ヨリ海中ニ斗出シテ一
大灣ヲナシ、燈臺其岬頭ニ建テリ。灣内水深クシ
テ碇泊ニ便ナルガ故ニ、内外ノ船艦常ニ麇至沓
次ス。此港ヨリ大坂ニ達スルノ海路僅ニ七里ニ
過ギズシテ、特ニ陸ニハ鐵道ノ設ケアルヲ以テ、
運輸行旅尤モ其便ヲ極メ、從テ貿易モ亦繁昌ス。
即チ兵庫縣廳ノ在ル處ニシテ、横濱ニ亞ゲル貿
易場タリ。故ニ外國人ノ居留亦多ク、人口ハ兵庫

ト合シテ大約五萬餘、湊川ノ神社アリ、即チ楠正
成ヲ祠ル處ナリ、維新後別格官幣社ニ列シ、社殿
モ其規模ヲ大ニシ、賽スルモノ常ニ絶エズ。其西
ニ福原アリ、昔時平氏ノ安徳帝ヲ奉ジテ誓ク都
セシ處ナリ。

長崎ハ亦五港ノ一ニシテ、東京ヲ距ル大約三百
五十里、長崎縣廳ノ在ル處ナリ。海灣二里餘ニ亘
リ、三面皆山ヲ負フ。其北ニアルヲ稻佐山ト曰ヒ、
極端ヲ神崎ト稱フ。南岸ハ遙ニ海中ニ突出スル
コト九里許、極端ヲ野母崎ト云ヒ、其二相擁シテ



灣口ヲナス。燈臺ハ港口ノ伊王島ニアリ。灣内水深ク、且ツ三方ニ山ヲ環ラシ、常ニ風濤ノ急ナキヲ以テ投錨ニ宜ク、内外ノ船舶、舳艫灣内ニ相摩シ、遠近ノ貨物街市ニ充斥ス。商家ハ灣ヲ周リテ建設シ、宛モ蜂房ノ如ク、人口凡ソ三萬九千餘、工

作場、造船所、學校等アリ、又外國ノ商館アリ、盛ニ貿易ニ從事ス。寛永十八年、始メテ支那、和蘭兩國ノ通商ヲ特ニ此港ニ限リ、他ハ一切禁ゼラレシヲ以テ、爾後二百二十八年間、本港久シク其内外ノ利ヲ專有セシガ、安政六年ニ至リ、新ニ横濱、函館等ヲ開キ、并ニ互市場トナセシヨリ、其繁昌近時ハ大ニ昔日ニ及バズト云フ。

第九課 趙雲ノ忠勇

支那漢ノ末蜀ニ趙雲字ハ子龍ト云フモノアリ。先主劉備ニ仕ヘテ、五虎將軍ノ一人タリ。劉備嘗

操ノ軍八十二萬ト荊州ニ戰ヒ利アラズシテ逃
奔セシトキ趙雲ハ先主ノ家孥ヲ護シテ同ク從
ヒシガ曹操之ヲ追フコト甚ダ急ナリ常陽ノ長
坂ニ至リテ亦大ニ敗レ劉備僅ニ身ヲ以テ免ル
趙雲槍ヲ揮ヒテ自ラ敵ニ當リ血戰數合ノ後我
軍ヲ顧ミルニ其護ル所ノ家孥皆散ジテ行ク所
ヲ知ラズ嘆シテ曰ク我至重ノ囑託ニ背キテ幼
主阿斗ヲ失フ之ヲ索メズンバ何ノ面目アリテ
再ビ君ニ見エンヤト殘兵二十餘騎ト俱ニ敵軍
八十萬ノ中ニ突入シ縱橫奮擊能ク其鋒ニ當ル

モノナシ偏ク諸方ヲ尋子テ遂ニ夫人甘氏ヲ認
メ之ヲ援ケテ遁レ去ラシメ復タ入りテ幼主ヲ
索ムルニ更ニ其蹤跡ヲ見ズ時ニ從兵皆既ニ死
セリ趙雲單騎馳セテ樹下ヲ過グルニ兒ノ泣ク
聲ヲ聞ク近ツキテ視レバ夫人糜氏ノ阿斗ヲ抱
キテ僵仆セルナリ趙雲天ヲ拜シテ大ニ喜ビ夫
人ヲシテ己レガ馬ニ騎ラシメントス糜氏曰ク
妾既ニ創ヲ被リテ起ツコト能ハズ將軍願クハ
此兒ヲ翼ケヨト遂ニ躬ヲ傍ノ井中ニ投ジテ死
セリ趙雲乃チ甲ヲ脱シテ兒ヲ懷ニシ槍ヲ執リ

馬二跨リ復タ八面ヨリ競ヒ進ム所ノ敵ト戦テ、
 數十人ヲ斃セシガ、過テ阱中ニ陷ル。曹操ノ將、上
 ヨリ槍ヲ倒ニシ、之ヲ刺サントス。趙雲馬ニ鞭シ
 テ躍リ出デ、復タ曹操ノ隊中ニ入ルニ、宛モ無人
 ノ境ヲ過グルガ如シ。曹操山上ヨリ之ヲ望ミ見
 テ、其名ヲ問ハシム。趙雲曰ク、我ハ常山ノ趙子龍
 ナリト。曹操其勇壯ヲ賞シ、命ジテ矢ヲ發スルコ
 ト無ラシム。趙雲遂ニ曹操ノ圍ヲ脱シ、劉備ニ會
 シ、乃チ阿斗ヲ出ダセシニ、熟睡セリ。劉備大ニ怒
 リテ、汝至愚ナリ、將軍ヲ勞シテ、猶安眠スルカト

云セシトゾ。是ヨリ趙雲益々寵遇ヲ享ケ、常ニ客將
 軍ヲ以テ禮セラレタリ。此人ノ如キハ、臣タルノ
 道ヲ竭シテ、克ク委託ニ背カザルモノト云フベ
 キナリ。

第十課 身體ノ機關

其三 消化

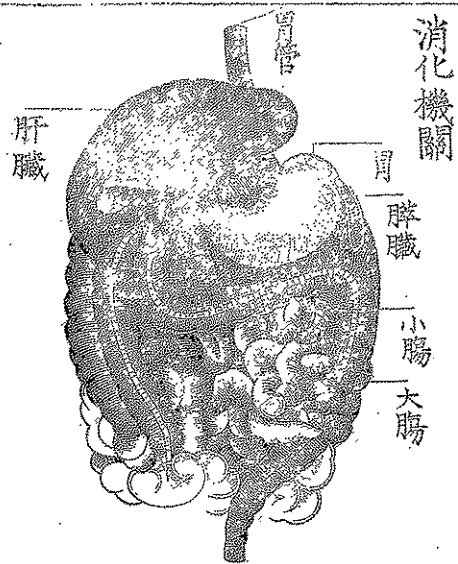
人若シ食ヲ斷ツコト半日ナルトキハ、忽チ全身
 ノ疲勞ヲ感ジ、一日二日ニ亘ルトキハ、筋肉瘦削
 シ、疲勞起ツ能ハザルニ至ルベシ。是レ人身ハ日
 夜運營シテ息マズ、新陳相代謝スルモノナレバ

常ニ食物ヲ以テ、其消耗ヲ補足セザルベカラザレバナリ。

然レドモ食物ト人身トハ、素ト同一物ニアラズ。然ルニ食物ヲ以テ人身ノ消耗ヲ補フト云フハ、甚ダ訝シキニ似タリト雖、然ル所以ノ理ハ、人身ノ中ニハ自ラ食物ヲ變化シテ、以テ其補充ノ功ヲ奏セシムベキ機關アルニ由ルナリ。此機關ヲ名ケテ消化機關ト云フ。

凡ソ食物口ニ入レバ、先ヅ上下三十二枚ノ齒アリ之ヲ咀嚼シ、唾液之ヲ潤ホシテ食道ニ下ス。食

道ヨリ胃ニ至ルマデ、一ツノ膜管アリ、之ヲ胃管ト曰ヒ、其張縮ノ作用ニ由リテ、食物ヲ胃ニ下スベシ。食物胃ニ至レバ、胃ハ頻リニ其筋膜ヲ蠕動シテ食物ヲ盪搖シ、又胃液ヲ分泌シテ食物ヲ糜爛ス。因テ食物ハ化シテ一種ノ液トナリ、血液ニ混ジテ、身體ヲ循環シ、以テ各處ヲ營養スルナリ。胃中ニ在テ消化シ了ラザルモノハ、更ニ下テ小腸ニ



至ル。小腸ハ迂曲セル管狀ノモノニシテ、上ハ胃ニ接シ、下ハ大腸ニ連リ、長サ凡ソ二丈五尺ニ達セリ。是亦張縮ノ作用ト液汁ノ分泌トヲ以テ、食物ヲ消化スルコト胃ニ異ナラズ。其遂ニ消化セザル物ト滋養ニ適セザル物トハ、大腸ヲ過ギテ體外ニ出ツ。以上消化機關作用ノ大略トス。消化ノ作用ヲ敏旺ニシ、營養ノ功效ヲ全クセんとスルニハ、毎ニ食物ノ分量品類等ニ注意シ、又善ク飲食ノ時限ヲ守ラザルベカラズ。食物ノ分量不足スルトキハ、身體ノ費耗ヲ補充スルノ功

少ナク、若シ又多キニ過グレバ、消化ノ作用ヲ妨ゲ、疾病ヲ醸スノ恐アリ。又品種ノ如キモ、氣候ノ寒暖、年齢ノ老弱ニヨリ、一概ニ論ジ難シト雖モ、要スルニ蛋白質、脂肪、糖類、澱粉類、礦物質ヲ以テ必須ナルモノトス。日常人ノ食スル米穀、菜蔬、果實ノ類ハ、糖類、澱粉類ヲ含ムモノニシテ、又其實味スル鶏卵、牛乳、禽獸、魚介ノ肉ハ、多ク蛋白質、脂肪質ヲ含有スルモノナリ。又水、鹽ノ如キモノヲ礦物質ト云フ。凡ソ此四質ハ、皆人身ノ構造ニ要スル物ニシテ、苟モ此一ヲ缺ケバ、身體ノ營養ニ

乏ヲ告グルガ故ニ、此四質ハ必不適宜ニ調和シテ、以テ日常ノ食物トナサバカラス。

胃ニツキ古キ寓言アリ。曰ク、一日、耳、目、鼻、口、手、足ノ輩相議シテ謂ラク、諸君ヨ、胃腑ノ平常傲慢無禮ナルハ、實ニ甚シキニ非ズヤ。身ハ深ク腹中ニ逸居シテ何ノ藝能モナク、優遊以テ歲月ヲ送り、日ニ余輩ヲ役使シ、余輩ノ支給ヲ私シ、一日モ報謝スル所ナシ、余輩不滿ニ堪ヘズ、自今余輩ハ盟テ復タ胃腑ノ驅役ニ供セザルベシト。是ニ於テ足ハ食堂ニ至ラズト云ヒ、手ハ食物ヲ口ニ致サ

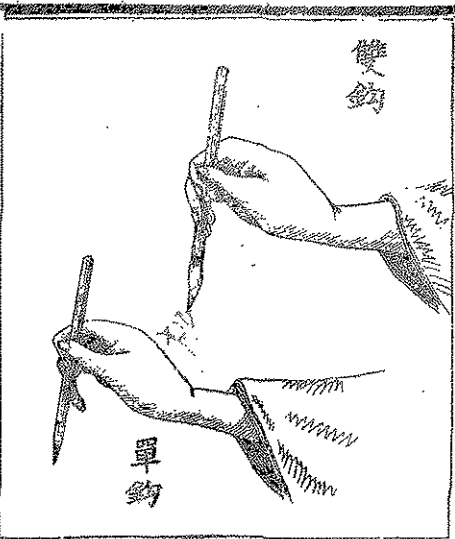
ズト云ヒ、眼ハ見ズ、耳ハ聞カズ、鼻ハ嗅ガズ、口ハ味ハズト云ヒ、各其職務ヲ廢シ、暫時ハ揚々トシテ得色アリ、已ニシテ手ハ痿エ、足ハ痺レ、眼ハ暈ミ、口ハ潤レ、全身困頓疲羸シテ如何トモシガタク、相對シ惘然トシテ始メテ前議ノ非ヲ悟ル所アルガ如シ。時ニ胃進ミ出デ衆ニ諭シテ曰ク、儲モ愚ナル方々ヨ、余ハ決シテ初メヨリ各位ノ仕送りヲ私スル者ニ非ズ、各位ノ勞苦シテ給セラレ、食ハ、余則チ受ケテ聊モ冗費セズ、力ヲ盡シテ直ニ之ヲ消化シ、滋液ト爲シテ各位ニ分與ス

レバコソ、各位モ壯康ナレ、サレバ今ヨリハ各、不
平ヲ止メテ其本分ノ業ニ從事スベシ、余モ亦舊
ニ依テ各位ヲ榮養スルコトヲ急ラザルベシト
云ヒシトゾ。

第十一課 筆法ノ初歩

諸子ハ字ヲ書クコトヲ欲セザルカ、字ヲ善ク書
カンコトヲ欲セバ、先ヅ體ヲ正シクシ、墨ヲ高ク
取リテ端正ニ磨リ、正シク筆ヲ執リテ手本ト見
合セ、一點一畫モ違ハザル様、平正分明ニ畫クベ
シ。此ノ如ク日々幾回モ反復熟習スレバ、進歩セ

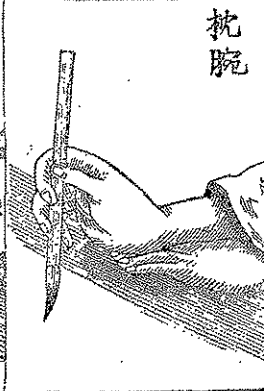
ザルコトナシ。然レドモ亦筆法ト云フ者アリ、之
ヲ知ルト知ラザルトハ、大ニ其進歩ノ遲速ニ關
係アルモノナリ。故ニ余ハ今筆法ノ中ニモ、最モ
緊要ニシテ最モ先ヅ知ルベキコトヲ、諸子ニ諭
スベシ。



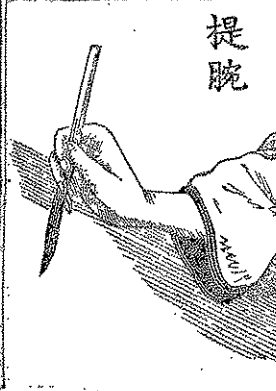
先ヅ筆ヲ執ルニ雙鉤、單鉤ノ
二様アリ。雙鉤ノ法ハ、筆ヲ大
指ト食指ニテ挟ミ、大指ノ腹
ト食指ノ中節トノ間ニ當ツ。
此二指ハ力ヲ主ル。次ニ中指

ヲ屈メテ筆ヲ壓ヘ、次ニ無名指ノ爪ト肉トノ際
 二筆ヲ當テ、上ニ壓シ上ゲテ、中指ト相對シテ挾
 ミ、中指ハ外ヨリ内ヘ壓シ、無名指ハ内ヨリ外ヘ
 壓ス此二指ハ運動ヲ主ル。次ニ小指ハ無名指ノ

枕腕

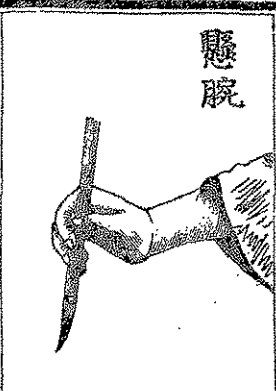


提腕

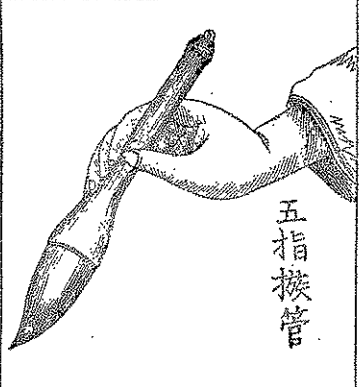


下ノ角ニ列子テ、筆ノ左右ヘ往ク
 時、無名指ヲ助ケテ導キ送ルナリ。
 單鉤トハ、食指一ヲ掛ケ、筆ヲ挾ム
 ヲ云フ。單鉤ハ、手固マラズシテ筆
 ニ力無シ。凡ソ筆ヲ執ルニ、甚ダ強
 ク握ル可カラズ。指ハ筆ニ淺ク掛

懸腕



クル時ハ、力弱クシテ手ノ中自由
 ナラヌモノナリ。
 又運腕法ト云ヒテ、腕ノ運シ方ニ
 三ノ法アリ。即チ枕腕、提腕、懸腕是ナリ。枕腕ト云
 フハ、左ノ手ヲ右ノ腕ノ下ニ敷キテ、右ノ手ノ枕
 ニスルコトニテ、是ハ小字ヲ書ク法ナリ。提腕ト
 云フハ、右ノ肘ハ机ノ上ニ着ケテ、腕ヲ少シアグ
 ルコトニテ、是ハ中字ヲ書ク法ナリ。懸腕ト云フ
 ハ、肘ヲ高ク上ゲ、腕ヲ空中ニ置クコトニテ、是ハ
 大字ヲ書ク法ナリ。腕ヲ下ニ着クレバ、働カズ。以



上小字、中字、大字ヲ書ク三ノ法ナリ。又五指撥管ト云フコトアリ。五指ヲ撥メテ管ヲツマミ、手ヲ伸ベテ書クコトニテ、或ハ跪キ或ハ立チテ書クベシ。壁上及ビ屏風等ニ書ク時ハ、此法ヲ用フルナリ。

第十二課 三様ノ平準

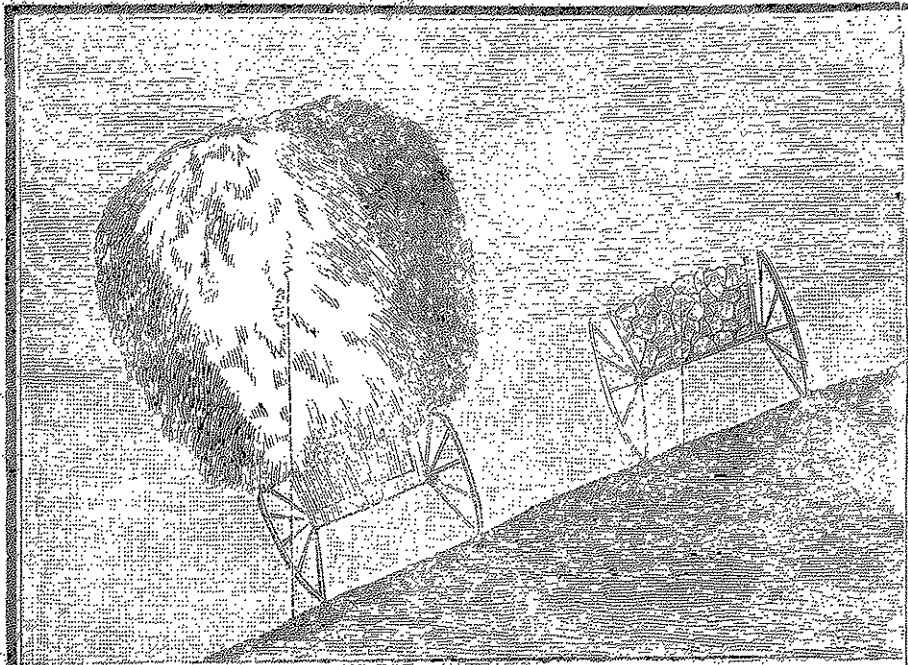
凡ソ物ノ形狀タルヤ、千差萬別、紀極アルナシ。然レドモ各物亦皆依テ以テ平準ヲ爲ス可キ一點アリ、全重ノ機軸タルコト、猶槓杆ノ支點ニ於ル

ガ如シ。即チ全重ノ輻湊シテ、地心ニ朝スルノ點ナリ。此點ヲ稱シテ物ノ重心ト云フ。故ニ重心ヲ支アレバ、物皆平準ス可シ。抑重心ノ位置ニ從ヒ、平準ニ三様ノ別アリ。

物體平準ヲ爲スノ時ニ方テ、之ヲ動搖スルニ、舊位ニ復セント欲スルノ意アルコトアリ。又彌舊位ニ遠ザカラントスルノ勢アルコトアリ。譬ヘバ、懸垂シタル洋燈ノ如キハ、舊位ニ復セントシ、指頭ニ立テタル杖ノ如キハ、舊位ニ遠ザカラントス。甲ヲ安定平準ト云ヒ、乙ヲ不安定平準ト云

フ。物既ニ平準ヲ得、其居ヲ定ムルノ際、是ヲ動搖
 スル時、重心高キニ登ルノ意アレバ、其平準ハ安
 定ニシテ、重心ハ元來卑キニ在リ。若シ動搖ニ由
 テ重心卑キニ降ルヲ得レバ、其平準ハ不安定ノ
 状態ニシテ、重心最モ高キニ在ルナリ。何ヲ以テ
 之ヲ謂フ。曰ク、他ナシ、重心高キニ登ルハ、重力ノ
 作用ニ逆ヒ、全體ヲ扛舉スルト一般ナルガ故ニ、
 其位置ヲ保タント欲セバ、幾分ノ努力ヲ須ヒザ
 ル可カラズ。一旦努力少シク弛ムトキハ、重心ハ
 固有ノ性ニ因リ、卑キ地位ニ降ラントスルノ勢

アレバナリ。之ニ反シテ、重心ヲ卑キニ降ラシム
 ル時ハ、物ノ全體ヲ引キ下グルト同一ニシテ、重
 力之ガ聲援ヲナシ、却テ位地ノ變換ヲ促スヲ以
 テ、抵抗ヲ受クルコトナシ。試ニ玩具ノ不倒翁ヲ
 取テ、其製作ノ理ヲ察スベシ。起落擺搖數回ニシ
 テ、遂ニ初ノ位置ニ復スル所以ハ、下部上部ヨリ
 重ク、重心最下ノ點ニ在レバナリ。乾草ヲ積ミタ
 ル車、道路ノ不平ニ遇ヒテハ、砂石ヲ載セタル車
 ヨリ顛覆シ易ク、起立セル人ヲ載スルノ渡船覆
 没シ易キ所以、皆重心ノ高卑如何ニ由ラズンバ



アラズ、而シテ底ノ廣狹
 モ、亦大ニ平準ニ關スル
 者ナリ。
 又別ニ中立若クハ不偏
 平準ト稱スル狀アリ。安
 定平準ニモ非ズ、又不安
 定平準ニモ非ザルノ謂
 ナリ。平坦ナル板上ニ靜
 止スル圓球ノ平準ノ如
 キ即チ是ナリ。蓋シ圓球

ハ轉輾スルモ重心昇降スルコトナク、恒ニ球ノ
 半徑ニ均キ平面上ニ在リテ、球心ト相均シキヲ
 以テ、何ノ部位タルニ拘ハラズ、一方ニ偏スルコ
 トナク、表面皆底ト爲リ以テ安頓スレバナリ。

第十三課 鐵ノ三種

金銀貴シト雖モ、以テ耒耜ヲ製スベカラズ、或ハ
 刀劍銃鎗ト爲テ國家ヲ防禦シ、或ハ什具機械ト
 爲テ農工ヲ勸ムル者、鐵ニ非ズシテ何ゾ。凡ソ金
 類多シト雖モ、人生ニ有用ナルハ、鐵ニ若ク者ナ
 シ。上古ノ人器具ヲ造ルニ青銅ト石トヲ以テシ、

未ダ世ニ鐵アルヲ知ラザルコト久シ。蓋シ地上
純粹ノ鐵ヲ産スル極メテ罕ナリ。其鐵鑛ヨリ之
ヲ製取スル法頗ル難ク、多少ノ智識ト經驗トア
ルニ非ズンバ能ハザレバナリ。故ニ鐵具ヲ用フ
ル時代ヲ以テ、文明進歩ノ第一着ト爲セリ。
方今製スル所ノ鐵ニ三種アリ、各其性質ヲ異ニ
シ、且ツ其成分ヲ同ウセズ。三種トハ鍛鐵、鑄鐵、鋼
鐵是レナリ。

鍛鐵ハ略ボ鐵ノ純ナル者ナリ。其質堅牢ニシテ
粘力アリ、之ヲ鑢、テバ隨意ノ形ヲ作り得ベシ。鑄

鐵ハ鐵ト炭、珪、二素トノ化合物ニシテ、鍋釜ノ如
キ鑄造ノ物ハ、總テ之ヲ以テ製セル者ナリ。鋼鐵
ハ鍛鐵ニ少許ノ炭素ヲ加ヘタル者ニシテ、其質
更ニ堅硬ナルヲ以テ、各般ノ利器ヲ製ス可シ。
鐵鑛中最モ普通ナルハ、酸化鐵ト稱シ、鐵ト酸素
ト化合セル者ナリ。夫ノ磁石ト名クル一種ノ奇
性アル者モ、亦此酸化鐵ノ一種ナリ。是ヨリ冶鐵
法ノ概略ヲ説カン。
往時鍛鐵ヲ取ルノ法ハ、鐵鑛ニ木炭若クハ石炭
ヲ混ジ、風爐ヲ以テ熱燒シ、得ル所ノ粗糙ノ生鐵

科用事 鑄鐵ノ法 一
ヲ鍛鍊シテ固塊トナシ、ナリ。然レドモ近時ノ
法ハ、先ヅ鐵鑛ヨリ鑄鐵ヲ取り、後ニ炭素ト珪素
トヲ除去シテ鍛鐵ト爲ス。其始メ鐵鑛ヲ碎キ、石
炭ト灰石ト共ニ熔鑛爐中ニ投入ス。熔鑛爐ノ高
サ大約五十尺、爐内最モ廣キ處ハ、直徑十五尺ヨ
リ十八尺ニ至ル。爐底ニ近ク鞴ヲ設ケテ空氣ヲ
通ジ、火ヲシテ熾ナラシメ、之ヲ燒ケバ、鐵ハ熔ケ
テ爐床ニ在リ、乃チ時々爐傍ノ口ヲ開キ、熔鐵ヲ
沙型ノ上ニ流シタル者、即チ鐵鑛ナリ。
鑄鐵ヨリ鍛鐵ヲ取ルハ、反射爐中ニ之ヲ燒キ、其

炭素ト珪素トヲ去リ、後之ヲ鍛鍊シテ鐵滓ヲ除
キ、以テ條ト爲シ、板ト爲スナリ。
鋼鐵ヲ製スルハ、又冶鐵ノ一要技ナリ。其法木炭
ヲ以テ鐵條ヲ圍ミ、之ヲ熱スルコト良、久ウス。此
ノ如クスレバ、其鐵百分中ニ炭素ヲ含ムコト一
分ヨリ二分ニ至リ、變ジテ鋼鐵トナル。鋼鐵ヲ以
テ利器ヲ製センニハ、更ニ烈火ヲ以テ之ヲ燒キ、
急ニ冷水ニ投ジテ之ヲ冷スベシ。然ルトキハ、其
堅硬脆弱ノ性愈増加ス。此術ヲ淬鍛ト云フ。淬鍛
セル鋼鐵ヲ再ビ燒ケバ、熱度ノ増スニ從テ、堅硬

ノ性次第ニ減ズレドモ、脆弱ノ性ハ、變ジテ彈力ノ性アル者ヲ得ベシ。故ニ刀劍ノ利鈍ハ、此淬鍛ト再燒トノ加減ニ由ル者ナリ。

第十四課 吉益東洞

往時吉益東洞ト云ヘル良醫アリ、本姓ハ畠山氏、安藝ノ人ナリ。少シテ志氣アリ、以爲ク我祖政長ハ管領タリ、我レ天下ノ名族トシテ、家聲ヲ再ビ興スコト能ハザランヤト。初メ兵法ヲ學ビ、馬ヲ馳セ、劍ヲ試ミシガ、年漸ク長ズルニ及ビ、自ラ以爲ク、太平ノ世武術ニ長ズルモ、亦用フルノ地無

ケント。乃チ慨然トシテ曰ク、大丈夫良將トナラズンバ、當ニ良醫トナルベシト。卒ニ醫術ニ心ヲ潜メ、黽勉スルコト歳アリ。業成リテ後、邊僻ノ地ニ住セシカバ、疾ヲ救フノ功多カラズ、業ヲ授クル私カラズ、以爲ク、都會ニ非ズンバ、志ヲ達シ難シト。

元文三年、家ヲ携ヘテ京師ニ移リ、專ラ仲景ノ治方ヲ唱フ。然レドモ其業未ダ盛ニ行ハレズ、家屢空シ。其友村尾某之ニ筮仕ヲ勸ム。東洞可カズシテ、初メ我レ子ヲ以テ知己ナリトス、今ニシテ子

科用...
ハ我ヲ知ルモノニ非ザルヲ知ル、我レ貧ニシテ
且ツ親老タリト雖モ、何ゾ志ヲ降シテ貧ノ爲メ
ニ仕フルコトヲセシヤ、窮通ハ命ナリ、縦ヒ我術
行ハレズトモ、天豈ニ斯道ヲ喪ボサンヤト云ヒ
テ顧ミザリシカバ、家益貧ク飢餓旦夕ニ迫ラン
トス。然レドモ東洞晏如トシテ憂戚セズ。一日其
舊知ノ賈翁來リ訪ヒ、憐ミテ金若干ヲ惠ム。東洞
毅然トシテ曰ク、我レ豈故ナクシテ人ノ金ヲ受
ケンヤ、又縦ヒ之ヲ受クルモ、報ユベキノ期無シ。
賈翁之ヲ強ヒテ曰ク、吾何ゾ償ヲ求ムル者ナラ

ンヤ、且ラク先生ヲシテ凍餓ニ陥ラザラシメ、以
テ廣ク世人ノ生命ヲ救濟セントスルナリト。東
洞其言ニ感ジテ之ヲ納メ、纔ニ飢寒ヲ支フルコ
トヲ得タリ。幾クモ無クシテ、一人ノ病者ヲ診シ、
藥石ヲ投ゼシニ、會席ニ山脇東洋ト云ヘル人ア
リ、大ニ其主方ヲ是トシ、甚ダ歎賞ス。病者モ亦曰
ナラズシテ癒ユ。東洞ハ東洋ノ常人ニアラザル
ヲ知り、厚ク交リヲ結ブ。東洞ノ名是ヨリ世ニ顯
ル。年五十二シテ類聚方、藥徵、方極等ノ書ヲ撰ビ、
專ラ古方醫ノ規律ヲ立ツ。晚年ニ及ビ、中津侯祿

五百石ヲ以テ召スト雖モ應ゼズ而シテ其術或ハ世人ニ疑ハル、モノアリシモ、毫モ意トセズ、安永二年歳七十二ニシテ歿セリ。

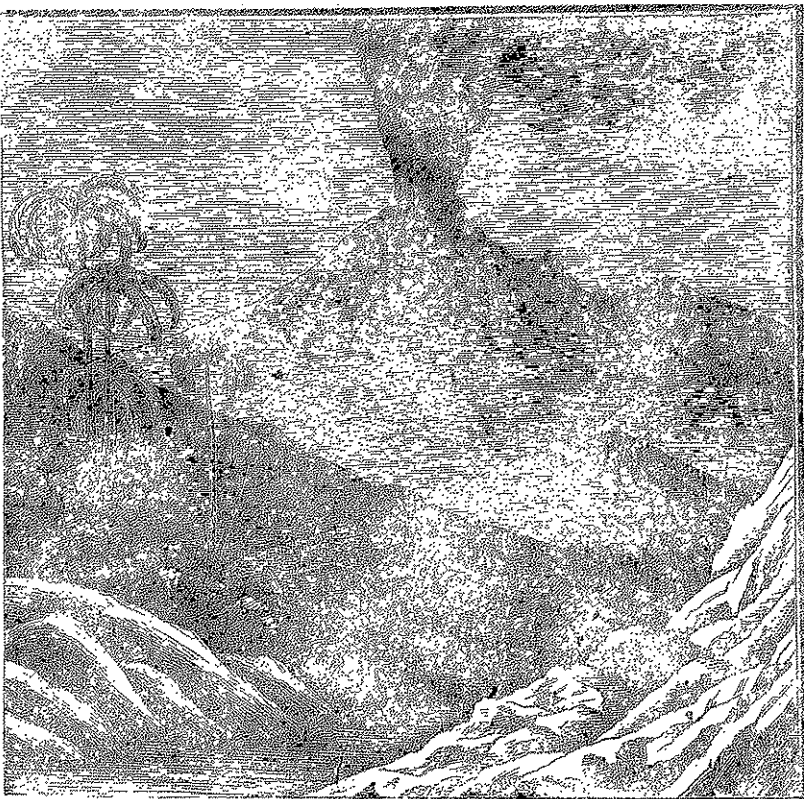
東洞ハ身名族ノ後タルヲ以テ、少シテ奮然志ヲ王家ニ傾ケ、以テ爲ス所アラントセシカドモ、太平ノ世力ヲ展ブル所無キヲ觀テ、業ヲ刀圭ニ轉ジテ、當時ニ木鐸タラントス。而シテ其初メヤ、治ヲ乞ヒ業ヲ問フ者稀ニシテ、檐頭蛛網ヲ張り、釜底塵ヲ堆クスルニ至ルモ、敢テ志ヲ屈セズ、其後ヤ盛名遠近ニ喧傳シ、重祿ノ聘アルニ至ルモ、亦

誓フ所ヲ守テ敢テ利ニ汚サレズ。古人言ヘルコトアリ、始メアリ能ク終リアルモノ鮮シト、獨リ東洞ノ如キハ、終始志操ヲ持スルコト一國ノ如クニシテ衰ヘズ、豈毅然タル大丈夫ニアラズヤ。洵ニ祖先ヲ辱メズト謂フベキナリ。

第十五課 火山

地中ノ火熱地上ニ泄ルレバ、地鳴動シテ蒸氣、灰塵或ハ熱鎔セル岩石等ヲ噴出ス。此雜物噴口ノ周圍ニ堆積シテ圓錐形ノ山嶽ヲ成ス、是即チ火山ナリ。

火山ニハ消火山ト活火山トノ二類アリ。消火山トハ有史時代ヨリ前ノ噴出ニ係ル者ニシテ、其形状、岩石ノ性質及ビ噴口ノ存スル等ニ由テ、徴ス可キモノトス。活火山トハ有史時代ヨリ後ノ噴出ニ係ルモノニシテ、斷エズ噴出スルモノト、定期噴出スルモノト、又期ヲ定メズシテ噴出スルモノトアリ。信濃ノ淺間山ノ如キハ、常發火山ナレドモ、伊豆大島ニ在ルモノ、如キハ、定期火山ナリ。又富士山ハ久シク噴出セズシテ、現今ハ消火山ノ如クナレドモ、其實不定期火山ニ屬ス。



ルモノナレバ、今後ノ爆裂ハ、又何ノ日ニアルベキヤ、豫メ知ル可ラザルナリ。地學者ノ説ニ據ルニ、現今地球上ニ存スル火山ノ數ハ四百有餘ニシテ、其内活火山ニ屬スルモノ

ノハ二百七十餘アリト、我國ハ北海道ノ北隅ヨ

科用...
リ九州ノ南隅ニ至ルマデ、活火山ノ數四十九アリ、消火山ハ勝テ算スルニ違アラズ。即チ全世界火山ノ凡ソ五分ノ一ヲ有スルモノト云フベシ。火山ハ時トシテハ蒸氣ト共ニ夥シク燒石、熱灰等ヲ噴出シ、爲メニ晴天モ濛朧トナリ、其迸發セラル灰燼ハ、灰ノ雨ヲナシテ遠ク四邊ノ田野ニ積ミ、膏腴ノ地ヲ變ジテ不毛ノ荒原トナスコトアリ。又「ラバ」ト名クル赤熱ノ鎔石ヲ噴溢シテ、山巔ヨリ流下セシメ、其路ニ横タハル諸物ヲシテ悉ク燒滅ニ歸スルコトアリ。之ヲ火山ノ爆裂ト稱ス。

火山ノ最モ虐ヲ肆ニシタルモノハ、伊太利國ノベシニユピアス山ナリ。耶穌紀元七十九年、此山突然鳴動シ、石礫灰塵ヲ迸發シ、驟雨集リ電光閃々、毒氣散漫シテ、宛モ百雷ノ一時ニ墜落スルガ如ク、將ニ天崩レ地折ケントス。須臾ニシテ「ラバ」山巔ヨリ溢レ出デ、近傍一面ハ燒熱地獄ト變ジタリ。是ニ於テ曾テ繁盛ヲ極メタルヘルキユラニアム、ポンペーノ二大都會ハ、其幾數萬ノ人民ト共ニ、憐ムベシ焦土ニ歸シタリト云フ。

第十六課 造化ノ不可思議

秋夜雲斂リテ滿天水ノ如シ。仰テ星辰ヲ望メバ、
燦爛トシテ小ナルモノアリ、皎々トシテ大ナル
モノアリ、燦爛タルモノヲ恒星ト云ヒ、皎々タル
モノヲ遊星ト云フ。恒星ハ常ニ其處ヲ變ゼズ、其
列ヲ紊サズ、各別世界ヲ照ス大陽ニシテ、其性質
ハ我日輪ニ異ナラズ、唯其無究ノ距離ニ在ルヲ
以テ、其光明ト溫熱トハ、多ク我地球ニ遠セザル
ノミ。彼ノ銀河ト唱フル一條ノ白帶ノ如キモ、星
辰ノ多ク集リタルモノナレドモ、其距離洪大無

邊ノ外ニ在レバ、肉眼ヲ以テハ之ヲ見分クル能
ハズ。猶遙ニ林樹ヲ望メバ、其箇々ヲ分ツベカラ
ザルガ如シ。遊星ハ我地球ト兄弟ノ星ニシテ、日
輪ノ引力ニ引カレテ、其周圍ヲ旋ルモノナリ。故
ニ心ヲ留メテ彼ノ皎々タル大星ヲ窺ヘバ、毎夜
其地位ヲ移スヲ見ルベシ。是等ノ遊星ハ、其數ハ
個ニシテ、我地球モ亦其一ナリ。今日輪ヲ距ル遠
近ニ從ヒ、次第シテ其名ヲ舉グレバ、水星、金星、地
球、火星、木星、土星、天王星及ヒ海王星ナリ。又別ニ
小星ト名クル許多ノ星アリ、亦遊星中ノ一群ナ

凡ソ遊星ハ固ト暗體ニシテ自ラ光ヲ放タズ、其
 皎々タルハ固ト日光ノ反射ノミ、故ニ其光眩ユ
 カラザルナリ。又彗星ト稱スル星アリ、其狀彗ノ
 如ク、遠ク光芒ヲ放チ、之ヲ望メバ人ヲシテ惆悵
 ノ情ヲ起サシム。其現ル、ヤ、必ズ時アリ。然レド
 モ往時人智ノ未ダ開ケザル時ニ方リテハ、之ヲ
 以テ國亂ノ凶兆ナリトセリ。今日之ヲ考フルニ、
 此星モ亦一種ノ遊星ニシテ、遠ク無極ノ邊ヨリ
 來リ、日輪ヲ周リテ、再ビ無極ニ向ヒテ去ルモノ

ナレバ、時ニ現ル、モ固ヨリ怪ムニ足ラザルナ
 リ。
 抑、宇宙ノ大ナル、日輪ノ外ニ又日輪アリ、世界ノ
 外ニ又世界アリ、其數幾百萬ナルヲ知ラズ。近キ
 モノモ數百萬里ニ下ラズ、遠キモノハ億兆ノ數
 チ以テスルモ、之ヲ測ルベカラズ。洪大トヤ云ハ
 ン、無邊トヤ云ハン、所謂太極ハ無極ニシテ、之ヲ
 考フレバ、人ヲシテ其不可思議ナルニ茫然タラ
 シムルノミ。
 然ラバ造化ノエハ斯ク大ナルモノカト思ヘバ、

科用...
細微ノ物ニ至リテモ、亦人ヲ驚カスニ餘アリ。蚤ノ足ニ毛アリ、蚊ノ脚ニ節アル如キハ、未ダ以テ奇トスルニ足ラズ、顯微鏡ヲ以テ之ヲ檢スルニ、物ノ微細ナルコト亦際限ナシ。一滴ノ血液ニ萬數ノ血球アリ、一本ノ絹絲ニ千百條ノ細線アリ、又水中ニ蟲アリ、其蟲ノ細ナルコト百萬ノ數ヲ集ムルモ罌粟粒ノ大サニ及バズ。此蟲小ナリト雖モ生活シ蠢動スルモノナレバ、亦生活ノ機關無カル可カラズ、然ラバ是等ノ機關ヲ成セル分子ノ更ニ微細ナルハ、人ノ思想ニ及バザル所ナ

リ。造化ノ不可思議是ニ於テ益極マレリ。

第十七課 輕氣球ノ語

輕氣球ハ千七百八十三年ニ起レリ。其始メ紙ヲ以テ之ヲ製シ、其下ニ鐵ヲ以テ作りタル火爐ヲ懸ケ、其内ニ劉ミタル橐ヲ燒キ、由テ發スル熱氣ノ作用ヲ藉リ、昇騰セシメタルモノナリ。蓋シ熱シタル空氣ハ、通常ノ空氣ヨリモ輕ク、從テ此輕キ氣ノ充チタル球ハ、ヨク上昇スルコト猶、コルクノ水ニ浮ブガ如シ。其後純粹ノ水素ヲ用ヒ、次デ炭化水素瓦斯ヲ用フ、即チ通常、街衢、屋内等ニ

テ燈ス瓦斯是ナリ。
 始メテ輕氣球ニ乗ジテ、空中ニ騰リタルハ、テロ
 シエト云ヘル、少壯敢爲ナル佛國人ナリシガ、後
 二年ヲ經テ、千七百八十五年、會其氣球火ヲ失ス
 ルガ爲メニ、自ラ災ニ罹リテ死ス。此年輕氣球ニ
 乗ジテ、始メテドーヴァー峽ヲ踰エタルモノニ
 人アリ。又婦人ニシテ、始メテ氣球ニ乗リタルヲ
 ブランシヤルド氏ト云フ。空中ニ昇騰セシコト、
 數回ニ及ビシガ、千七百九十六年、巴里近傍ノ公
 園ヨリ、氣球ヲ放チ上昇セントスルノ際、偶其傍

ニテ發スル所ノ煙火、不幸ニモ球ニ移リ、婦人ハ
 遂ニ墜落シテ、身體泥ノ如ク碎カレテ死セリ。
 嘗テ英國ニ輕氣球ニ乗ルノ巧ミナル人アリ、空
 中ニ昇ルコト、前後千四百回ニシテ、其英海峡ヲ
 超ユルコト三たび、誤テ之ニ陷イルコトニたび
 ニ及ビシト云フ。
 凡ソ氣球ヲ放ツノ土地ハ、如何ニ暖熱ナルモ、已
 ニ登テ高ク空際ニ至ルトキハ、亟寒堪ヘ難ク、呼
 吸促進シテ脈搏頻急トナリ、咽喉ノ渴熱スルヲ
 覺ユルトゾ。地球上最高ノ山巔ハ、五英里半ニ過

ギズ、然ルニ千八百六十二年ニ二英人ノ登リタル高サハ、三萬七千尺ニ達シ、即チ七英里ニ下ラズ、故ニ其寒威殊ニ嚴烈ニシテ、爲メニ二人ハ凍死ニ垂ンタリント云フ。

輕氣球ノ發明後、久シカラズシテ、之ヲ戰鬥ニ使用セリ、乃チ武官先ヅ球ニ乘リ、之ニ繩ヲ着ケテ地ニ繫ギ、高ク空中ニ昇登シテ、敵陣ヲ瞰視シ、以テ其動靜ヲ伺フナリ。近年合衆國ノ戰爭ニハ、氣球隊ヲ編成シ、球上ノ軍ヨリ、諸營ニ戰狀ヲ通報セリ。時ニ將軍フイツツ、ジヨン、ホルター、輕氣球

ニ乘ジテ敵陣ヲ伺ヒケルガ、偶繩斷チ、球ハ則チ風ニ隨テ、直チニ敵軍ニ近ヅカントス。將軍急遽ノ間、辨條ヲ引キ、之ヲ開キテ氣ヲ洩シ去リ、代フルニ重キ所ノ外氣ヲ以テシテ、其中ニ充タシケレバ、氣球漸ク降り、風位亦變ジ、幸ニシテ故所ニ復歸スルヲ得タリト云フ。

千八百七十一年、巴里府ノ日耳曼人ニ圍マレシ際ニ、巴里郵便局ハ輕氣球ヲ放ツコト、前後凡ソ五十四、書簡ヲ載輸スルコト、數百萬ニ下ラス。總テ圍城ノ間ニ諸所ヨリ發シタル輕氣球ノ數、六

十二個ニシテ、概子夜間ニ之ヲ放チ以テ敵ノ視察ヲ免レントセリ。斯ノ如ク深ク注意セシニ、猶敵陣中ニ落チタルモノ、亦少シトセズ。嘗テ一個ノ氣球ハ將ニ日耳曼哨兵線外ニ出デントスルニ當テ砲撃セラレ、又國境外ニ冲去セシモノモ多シ。就中一個ハ遙ニ飛揚シテ、ノルウェー國ニ至リ、クリスチアナ府ヲ距ル、六百英里ノ所ニ落チ、其他踪跡ヲ失セルモノ三個アリ、是レ恐クハ大西洋中ニ陥没セシナラン。

又或ハ躬ヲ圍城ノ外ニ出デント欲シテ、輕氣球

ニ乘リタルモノアリ。當時假設政府ノ職員ニシテ、後年大名ヲ天下ニ轟シタル、ガンベッタノ如キ、亦其一人ナリ。乃チ空中恙ナクトウル府ニ達シ、同黨ノ人ニ會合スルヲ得タリト云フ。

科用七... 第一編

高等普通讀本二編上終

社会科



明治二十年四月七日版權免許
同年五月出版
同年九月九日訂正再版御届
同年八月二十五日參版御届

定價金十六錢

東京府平民

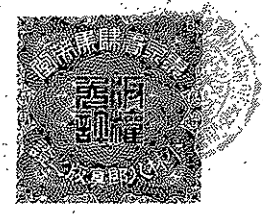
編者 高橋熊太郎

下谷區竹町一番地

東京府平民

出版人 小林八郎

日本橋區通張籠町十一番地



明治 20
41